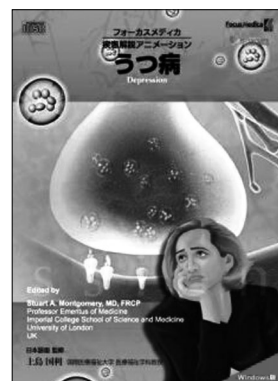


『うつ病 フォーカスメディカ 疾患解説アニメーション』

学生の理解に寄与する コンパクトな アニメーションの強み

日本語版監修：上島国利／定価 9,975 円 (CD-ROM 本体 9,500 円＋税 5%)
発行：テクノミック／TEL：03-3538-2531／<http://www.technomics.co.jp>



昨今うつ病患者は国内外を問わず増加しており、日本ではうつ病の生涯有病率は約 7.5%と、国民の 13 人に 1 人が生涯にうつ病を発症する可能性があることが指摘されています。また、1998 年から続く年間 3 万人以上の自殺の背景にはうつ病の存在が指摘され、疾患を抱えることでの個人的負担はもとより、社会・経済的にも深刻な問題として認識されてきています。

このような背景のなか、精神看護学に携わる身として、うつ病患者の現状と発症の背景、治療、看護などをどう教授していくかが大きな課題だと考えています。初学者の看護学生が、テキストを読んだり教員から話を聞いたりするだけで、患者さんの体験するさまざまな症状、またそれがどう患者さんの生活に影響するかを理解するのは、かなり困難なことです。また、発症要因や抗うつ薬の作用機序も、学生にとっては複雑でなかなか理解しにくい部分です。そこで、それらを払拭する教材が、『うつ病 疾患解説アニメーション』ではないかと思っています。

はじめにこのアニメーションを見たとき、トータルで約 10 分と、非常にコンパクトにうつ病の概要、治療や対処法などがまとめられていてたいへん感心しました。これを見れば、うつ病のことはひと通り学べるという、優れものだと思います。なかでも、患者さんの症状と生活への影響の様子

がリアルに表現されているので、学生もこれを見ることがうつ病の患者さんをイメージしやすくなるでしょう。また、発症要因については脳内のシナプス間隙における神経伝達物質の濃度の低下の様子、薬物療法では SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害薬) や SNRI (セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬)、三環系抗うつ薬などのそれぞれの作用機序をビジュアルに見ることができ、従来よりもずっと理解しやすくなるでしょう。なぜ三環系抗うつ薬に多くの副作用が出るのかも、これで理解できます。講義のなかで、あるいは臨地実習前などにぜひ学生が視聴できるとよいと思います。

また、この教材は、患者さんや家族にも大変役立つのではないかと思います。この教材のなかで有効な治療法の 1 つとして認知行動療法が紹介されていましたが、まさに認知行動療法では、心理教育は重要なスキルの 1 つです。患者さんや家族にうつ病の心理教育を行うときに、この教材を用いるとよいでしょう。患者さんや家族にもわかりやすい説明とアニメーションで構成されていること、項目別の再生が可能で同じ部分を繰り返し見られること、内容がコンパクトで、短時間で見られることなどがその理由です。

私自身、手元に置き、教育や実践に活用したい教材の 1 つと考えます。